

主務課：気候・海洋気象部気候情報課		関係課：海洋気象課、数値予報課、情報システム課		
業績指標名				
季節予報の精度		単位	現況値（時点）	目標値（年次）
1か月予報の精度		%	62 （平成13年度）	70 （平成18年度）
数値予報モデルによる予測期間の延長		月	1 （平成12年度）	3（平成15年度） 6（平成17年度）
関連アウトカム目標（関連施策等） 生活の向上、社会経済活動の発展（気候情報の充実・改善）				
業績指標（1か月予報の精度）の解説 「1か月予報の精度」とは、1か月予報の数値予報モデルで予測した北半球の月平均の500hPa高度の誤差（実際の月平均高度との差）が一定（20m）以下となる領域の北半球全体に占める割合をいう。 500hPa高度（概ね上空5000m）の気圧場は、1か月予報において低気圧の通過経路や高気圧の消長を表現・予測し、気温等の予報に最も重要な基礎資料であることから、1か月予報の精度を測る指標とする。				
業績指標（1か月予報の精度）の目標設定の考え方 平成13年3月のスーパーコンピュータの更新にあわせ、新しい数値予報モデルを導入した。今後、数値予測モデルの改善に向けた技術開発とともに、ARGO計画（脚注）等の推進による海洋データの充実、地球観測衛星を活用した陸面データ（地表面の積雪、土壌中の水などのデータ）の充実等により予測モデルに用いる観測データの充実に努め、目標達成を目指す。				
（参考）過去の実績値				（備考）
H8	H9	H10	H11	H12
-	-	-	-	-
				H13から精度評価を開始
業績指標（数値予報モデルによる予測期間の延長）の解説 「数値予報モデルによる予測期間の延長」とは、スーパーコンピュータを用いた数値予報による長期予報の基礎資料を、何か月先までを対象に作成するかをいう。 従来の統計的手法では、地球温暖化をはじめ過去の統計データで想定されない気候の変動が起こった場合に適用できないこと、気象学・気候学の新たな知見を取り込んだ改善が困難なこと等の限界がある。このため、季節予報に力学的手法を導入し、精度向上を図る。				
業績指標（数値予報モデルによる予測期間の延長）の目標設定の考え方 平成8年のスーパーコンピュータの更新に伴い、1か月先までの予測については従来の統計的手法から数値予報モデルによる方法に移行した。現在、3か月先までの予測を行うべく技術開発を進めるとともに、ARGO計画（脚注）による海洋データの充実、地球観測衛星データの活用による陸面データ（地表面の積雪、土壌中の水などのデータ）の充実等を推進しており、平成17年度には6か月先まで予測期間を延長することを目標とする。				
（参考）過去の実績値				（備考）
H8	H9	H10	H11	H12
1	1	1	1	1

（注）ARGO計画：世界中の海に海洋内部の水温・塩分を自動的に測定できる装置を配置し、これにより得られるデータを用いて海洋の状況を把握し、気候の監視や予測に役立てる世界的な計画